

## 002 小田切幸一家文書目録（追加分Ⅰ）と文書目録の作成について

1 本文書「小田切幸一家文書目録（追加分Ⅰ）」は、2007年（平成19）6月に作成した「002 小田切幸一家文書目録」に続く二冊目の西糶屋（大糶屋・本小田切）小田切家文書目録である。すでに作成された文書目録898点は、須坂市に寄贈された文書である。本追加文書は、その後2012年（平成24）6月に市が小田切家から取得した土地とともに翌13年3月に取得した文書である。

2 文書取得完了後に旧小田切家の調査が開始され、第一次の収集史料となった2号蔵史料を中心に、本文書目録（追加分Ⅰ）を作成することとした。本目録に記載された史料は、発掘された小田切家文書中、書籍類を除く文書史料と限定してあるので了承されたい。

なお、書籍関係の目録については、生涯学習スポーツ課文化財係が別に文書目録を作成している。

旧小田切家土蔵の整理・調査は今後も続行され、第二次史料収集も進められているので、本追加目録に続く「文書目録（追加分Ⅱ）」を後刻作成する予定である。

3 本文書中最も古い史料は、寛政3年（1791）3月の「上下（かみしも）着用者書上覚」である。2007年（平成19）6月に作成した「小田切家文書目録」の史料よりは古い史料が散見される。寛政－文化・文政－天保期の史料は、以前の文書目録には見られなかった史料で、この時期の小田切家の動向がよみとれて貴重であろう。明治期の文書では小田切家が所有する明治11・12年発行の地租改正地券134枚がある。また、同22年12月作成の字上町外23枚の町内地図が残されている。もうひとつ目に留まる史料として、明治39年から大正6年までの当用日誌（11冊）がある。大正昭和期では、昭和期の所有土地台帳（6年～29年）、借家・小作人調べ台帳（7年～19年）総資産外経営台帳等経営に関わる史料も遺されている。

4 これら現存する史料を「小田切幸一家文書目録・追加分Ⅰ」として目録を作成した。『須坂市域の史料目録』の連番整理番号は既成の目録と同じ「002」の追加として位置づけ、史料番号は「002－F－1」から開始して、整理ラベルを貼付した。記号は変則的かつ便宜的であるが江戸期は「H」してある。整理された文書目録の総史料点数は以下のように1193点を数える。

記号	分類項目	総史料番号	史料点数
F	明治期	277	558
G	大正・昭和期	195	363
H	江戸期	182	246
I	その他	26	26
	合計	680	1193

5 本史料目録が、須坂市民ほか多くの地域史研究者によって活用され、新たな須坂市民の歴史が発掘されることを期待する。

- 6 史料目録の作成に当たっては、史料活用の便を考慮して次のようにした。
- (1) 史料名は、原則として史料中に記載された表題を記載したが、無表題史料には、次のように( )をもちいて仮表題を作成して掲げた。
- (年貢皆済状) (五人組改)
- (2) 「記」・「覚」などで内容無記載の史料については、次のように( )内に内容説明を記載したものもある。
- 記(領収証) 一札之事(博奕の件)
- (3) 請取など一紙史料は、便宜的に括って整理したものもある。その場合は、次のように一枚目の史料名を記し、他の史料については「外○点」などと略記した。備考欄には「便宜括り」と記載しておいた。
- 上納金領収書、外5点 苗木売渡証、外1点
- 7 本史料目録は、須坂市誌編さん室の下記専門員が分担して作成した。
- 勝山一男 丸山文雄 井上光由 田子修一

(編さん担当：青木廣安・丸山文雄)

2013年8月30日

須坂市誌編さん室